



歯の根元は酸に弱い

おとなの方は、歯周病や加齢により歯の根元が露出してくるため、虫歯になりやすい状況にあります。

歯の根もととは、歯を守っている硬いエナメル質が無いため、虫歯や物理刺激に非常に弱いからです。

虫歯は正しくは「う蝕」という。口の中にあるミュータンス菌が砂糖を餌に歯垢（しこう）を作り、そこでできた酸が歯を溶かすことで発生します。

おとなに多い「二次う蝕」とは、治療済みの歯に詰めたものの周囲に起きる虫歯のことです。治療から年月を経て詰め物と歯との間に隙間ができ、歯垢がたまりやすくなるのが原因になります。

もう一つの「根面う蝕」は、歯と歯茎との境目にできる虫歯です。歯周病や不適切な歯の磨き過ぎで歯茎が下がると、エナメル質に覆われていない歯根が露出し、軟らかい象牙質がむき出しになります。この露出部分は弱い酸でも溶けてしまうため、虫歯になりやすいのです。根面う蝕は、その発生のメカニズムから、特に高齢者に多いのが特徴です。

若い頃に治療済みの歯がある人や歯茎が下がってきている人は、こうしたおとなの虫歯ができるリスクが高いといえます。

さらに、おとなの虫歯には厄介な面も多いです。虫歯になっても進行が遅く、痛みを感じないままじわじわと進みますし、二次う蝕の場合には過去の治療で神経を抜いた歯は痛みを感じません。気づいたら虫歯がかなり進行していたというケースが多くなります。

また、根面う蝕は歯根の周りで輪状に進むため、ほかの虫歯に比べて治療が大変になりやすく、放置しておくと、木が伐採されるように歯が根元から折れてきます。

大きな問題を防止するためには、自覚症状に頼らずに、定期的に歯科医院で検診を受ける事が何よりも大切なのです。

おとなの虫歯はココが危ない！

気づいたら症状が進んでいる

虫歯がじわじわと進行して痛みを感じにくかったり、詰め物の下で虫歯が広がっていたりするため、気づいたときには思いのほか、症状が進んでいることが少なくない。

治療が厄介なケースも多い

特に高齢者に多い根面う蝕は、歯の根元部分で輪状に進行する。通常の虫歯のように削って上部から詰め物を入れることができないので、治療の難易度が高い。

虫歯のセルフチェックシート

check 1つでも当てはまる人はおとなの虫歯に注意

- 最近歯茎が下がってきた(歯が長くなった)
- つめたい水がよくしみる
- 間食やアメ、砂糖ガムなどを良く食べる
- 砂糖入りの、ジュースやコーヒーを良く飲む
- 10年以上前に治療した歯が多い
- 神経を取った歯がある
- 炭酸飲料や、酸味のあるものを良く摂る
- 歯磨きの時間が3分に満たない
- 歯ざしりを指摘されたか、寝起きに顎がだるい